



2年生 列車を利用

2年生は生活科の学習で、公共物や公共施設の正しい利用について学んでいます。

13日(木)は大曲駅に出かけ、自分で切符を買い、電車に乗る体験学習を行いました。飯詰駅までの乗車でしたが、2年生にとっては大冒険でした。また、大曲駅では新幹線こまちの到着と出発も見学しました。



改札口を無事通過！

5年生 GAO見学

14日(金)、5年生は男鹿水族館 GAOを訪問しました。一般の方は入ることができないバックヤードも見学し、水族館の秘密を探ることができました。

館内には6年生が昨年度作成した水環境の新聞が掲示されています。今後、5年生も学習の成果をまとめ発信していく予定です。



水族館の裏側、バックヤードを見学

地域の方から学ぶクラブ活動

わら細工

ふるさと・自然発見クラブは、美郷町わらの会の方々を先生に、わらをない、わらの壁掛けを作りました。



4年 ○○○○さん

わらないに初めて挑戦しました。やっているうちに、だんだんうまく出来るようになりました。かべかけは部屋に飾りたいと思います。

茶道体験

室内・昔遊びクラブは、千畠森茂会の方々を先生に、お茶をたてる主人役とお客様の両方の体験をしました。



5年 ○○○○さん

あわをたてるのが難しかったけど、教えてもらったら、うまくできてよかったです。抹茶は少しにがかったです。

大曲地区保護司会主催の「社会を明るくする運動大仙美郷作文コンテスト」において、6年生の○○○○さんが見事「優秀賞」を受賞しました。おめでとうございます。その作文を紹介します。



「相手の色とわたしの色」 千畠小6年 ○○○○

私は先日、わらび座ミュージカル「秋田は何もない」を見に行きました。その中で「秋田の子どもはみんな言う、秋田は何もない」という歌詞が出てきましたが、私は「いぶりがっこにきりたんぽ、ババヘラアイスもあるのにな」と思いました。秋田には秋田にしかない「色」があると、私は思うのです。そして、それは人にも言えることなのではないかと思います。

人は一人一人、名前や顔がちがいます。また、例えばAさんは頭がよくて、Bさんは運動神経がいいなど、得意なことだってみんなちがうと思います。それはいいことだと思うのに、そのちがうことについて、いじめる人も出てくると思います。得意なことがちがえば不得意なことがちがうのもあたり前です。また、髪の色や肌の色などの見た目のちがいや話す言葉のちがいなどがあるのも、世界は広いのだからあたり前だと思います。ちがいがあっても、地球上に住む同じ「人間」として、その人を認めることができます。見た目などの表面的なことではなく、その人の性格や考え方などをおたがいに尊重し合うことができれば、一人一人が自分の「色」を出すことができて、世界が「色」であふれ、カラフルになると思うのです。

でも、おたがいを認め合うことは簡単なことではないと思います。人には合う合わないがあるからです。しかし、合わないからといって「この人は苦手だ。」とすぐに決めつけてしまわないで、その人のいいところをまずは探してみたらいいと思います。すると、その人の意外な一面を発見できるかもしれません。

みんなちがうからこそ、それぞれ好きなものちがいます。好きなものに性別は関係ありません。女子だけがかわいいものが好きだということではなく、男子だってかわいいものが好きでもいいと思います。男だから女だからという理由で、自分の好きなものをあきらめないでほしいです。たとえ、周りの人たちに馬鹿にされても「好きなものは好き」と言える環境があればいいと思います。これはもしかすると、子どもだけでは難しいことかもしれません。大人も一緒に、自分以外の人の好きなことに共感したり、否定的ではない言葉かけをしたり、関心をもったりすることが必要だと思います。そうしたらおたがいを認め合い、好きなものを好きと言える社会になると思うのです。

では、社会を明るくするために、私たち子どもだけでもできることは何でしょう。私は「あいさつ」だと思います。千畠小学校では運営委員会が中心となって、あいさつ運動を行います。児童玄関前や廊下に運営委員が立ち、率先してあいさつを交わし、全校にあいさつを広める活動です。また、「いじめゼロ集会」という集会を企画し、クイズを出したり、いじめをなくす標語を募集して優秀作品を表彰したりして、いじめについて考えています。私は今年、運営委員としてこれらの活動を企画・運営しています。そのおかげで、「みんなが明るく楽しく生活できる」ということについて、今までよりも考えることが多くなったと思います。

私たち一人一人はみんな大切な人間です。それぞれがちがった個性という「色」をもっています。得意なことも不得意なことも好きなことちがいます。それを理由に、相手に嫌なことを言ったり暴力をふるったりして傷つけてはいけないと思います。もし失敗したとしても、その失敗をせめるのではなく、がんばったことをほめたいです。その人ががんばったことに気付くことができれば、社会はよりよく温かくなり、たくさんの「色」があふれる世の中になると思います。私は相手のよいところを見つけ、自分の「色」も大切にしながら、大きな声であいさつを交わし、明るい社会をつくる一歩をふみ出していきたいと思います。